

編 集 後 記

本年（昭和50年）は、我々が待望していたルッツさんが来校着任された。前任者のドリングさんが（彼は6年間別府大学で教鞭をとった）去ってから一年余、本年の七月にルッツさんが着任された。未だ二十代のこの若者は、内気ではにかみ屋の、研究熱心な好男子である。我々の論叢にも早速寄稿いただいた。日本での生活が楽しく学業益々発展されることを祈ってやまない。（G）

執 筆 者 紹 介 （ 執 筆 順 ）

沖 浩子	本学短期大学部助教授
Charles J. Lutz	本学文学部講師
後藤 一美	本学文学部講師

別府大学英语・英米文学論叢 第八号 1975

昭和50年12月30日 印刷発行

編集兼発行者 別府大学英语英文学会

代 表 者 小 山 政 憲

発 行 所 別府大学英语英文学会

別府大学英文学研究室

TEL (67)0 1 0 1

印 刷 所 つ ち や 軽 印 刷